

総括研究報告書

1. 研究開発課題名：支援機器イノベーション創出のための情報基盤構築に関する研究
2. 研究開発代表者：国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 研究所顧問 加藤 誠志
3. 研究開発の成果：

1) 支援機器開発事例データベース（以下 DB）の構築：厚生労働省の実施する障害者自立支援機器等開発促進事業の実績報告書の精査・検討に加え、新エネルギー・産業技術総合開発機構が実施している福祉用具実用化開発推進事業についても実績報告書などの資料の提供を受け、開発事例の実際に関する情報収集と課題の把握をした。その結果を踏まえ、支援機器開発の開発過程において発生しうる困難やその解決方法を抽出した。これらをもとに DB に収録すべきデータ構造を決定した。

2) 支援機器開発相談 DB の構築：横浜市総合リハビリテーションセンターでの相談支援の実態把握や日本作業療法士協会での相談支援の現状把握を行い、地域性や地理的な点を考慮し、実際の開発相談につなげることを念頭に相談機関に関する DB を構築する方針を決定した。機関名、専門職の構成、得意分野等の特徴、これまでの相談事例、機関の連絡先およびホームページを DB の構造として抽出した。横浜市総合リハビリテーションセンターをモデルとしてデータを収集し、修正を加え、最終的なデータ構造を決定した。

3) 補装具支給情報 DB の構築：DB の第一利用者となる行政職員にヒアリングを行い、収集した各種帳票の分析から帳票の標準化を行い、これに基づく DB のプロトタイプと入力インターフェースを作成した。その後、インターフェースの使い勝手等の調査を行い、項目の追加や変更等の入力画面デザインの修正を行った。また入力されたデータの分析を部分的に行った。

4) 義肢装具・意思伝達装置の選択・選定情報 DB の構築：これまで検討して決定したデータ項目とデータ構造を基に、DB ソフトを作成し、近隣のリハセンター5施設と協働で運用を開始した。

5) 支援機器の臨床評価および利用効果 DB の構築：昨年度に作成したチェックシートを用いて文献調査を行い、データ構造に基づく DB の試作をエクセルベースで行った。支援機器の臨床評価および利用効果データの収集を進め、試作した DB に収集データを入力して今後の課題の確認を行った。

6) 当事者参加型情報創発基盤の構築：昨年度の情報創発プラットフォーム「ウェル★ラボ」の試用評価の結果から、詳細な効果の検証を目的としたインタビューとアクセスログ分析の評価プロトコルを作成した。利活用促進に関するトピックの充実を図るためにワークショップを開催するなどの対策を講じ、週間で2000件以上の閲覧数を確保した。

7) 臨床評価倫理審査の人材育成：倫理審査関係者による意見交換会を実施した。意見交換会の試行後、結果を踏まえた倫理審査担当者研修会プログラムの再構築を行った。また、研修内容についてのさらに情報を得るため、昨年度の調査では主要な対象としなかった工学系大学の倫理審査委員会へのアンケート調査を実施した。

8) 当事者・専門職のイノベーション参画推進のための人材育成：昨年度に引き続き、当事者が司会を行う福祉工学カフェを企画、試行し、効果を検証することとした。発達障害者の企画で発達障害のある人の支援機器に関するカフェが、また視覚障害者の企画で移動支援に関するカフェが開催された。それぞれの企画で遠方からの参加や会場に入りきれないほどの当事者の参加があり、本手法は情報共有に効果があることが示された。

9) 支援機器コンテスト等による医療福祉・物作り系学生の人材育成：昨年に続き、支援機器コンテスト「ニーズ&アイデアフォーラム」を開催した。障害者のニーズと解決アイデアについて多分野・多職種の専門家・学生の連携に当事者が入ることで、より様々なことを学ぶ機会が増えた。